

熊本県立劇場 指定管理者 平成28年度 管理運営評価票

所管部局：企画振興部地域・文化振興局文化企画・世界遺産推進課

I 施設の管理概要

指定管理者名	公益財団法人熊本県立劇場
指定期間	平成24年4月1日～平成31年3月31日
施設概要	文化施設 1 目的: 県民の文化の振興 2 施設概要 ・コンサートホール 収容定員 1,810 人 ・演劇ホール 収容定員 1,172 人 ・大会議室 収容人員 162 人 (机・椅子使用時)、380 人(椅子のみ使用時) ・その他 和室、リハーサル室、第1～3練習室 駐車場(普通車490台、バス5台)、駐輪場(約150台)
指定管理料	435,042,579円(平成28年度分)

II 管理運営の評価

1 評価の総括

【管理運營業務の水準】

管理業務の水準の指標	目標値	実績値	差	備考
県劇入場者数	520,000 人	301,553 人	△218,447 人	対前年度△189,072 人
文化事業入場者・参加者数	34,000 人	42,415 人	+8,415 人	対前年度+ 8,060 人
コンサートホール利用率	73%	75.5%	+2.5ポイント	対前年度+2.2ポイント
演劇ホール利用率	81%	86.7%	+5.7ポイント	対前年度+7.8ポイント

【適正な事務執行の状況】

事務の内容	評価
施設の維持管理、定期点検等	適正
使用料の収納	適正
意見・苦情等への対応	適正

【県立劇場運営方針に定めるミッションの達成度】

【評価の基準】

- A：持続・更なる向上が期待される状態
- B：ステップアップが望まれる状態
- C：見直しが必要な状態
- D：抜本的な見直しが必要な状態

運営方針	評価項目	評価
質の高い事業の実施	①質の高い実演芸術に触れる機会の提供	A
	②特色ある自主企画事業の実施	A
普及啓発	③児童、生徒、学生等に対する質の高い実演芸術に触れる機会の提供	A
	④実演芸術の理解を一層深めるための付随事業の実施	A
	⑤アウトリーチ事業の実施	A
	⑥国内外で活躍する熊本県出身芸術家等との連携	A
	⑦日常的に人々が集い自由に文化芸術に触れることができるための工夫	A
専門的人材の確保及び資質向上	⑧専門的能力を有するスタッフの確保	B
	⑨県立劇場スタッフの専門的能力向上のための研修等の機会の付与	B
関係機関との連携強化	⑩県内文化ホール等(県外文化ホール、海外の文化ホール、実演芸術団体等を含む)との共同公演、巡回公演、情報交換等の実施	A
	⑪県内文化ホールへの派遣指導、受入研修、集合研修等の実施	B
経営の安定化	⑫協賛企業の確保等、多様な財源の確保	B
	⑬公演実施者及び鑑賞者の拡大に向けた取組みの実施	A
安全管理	⑭災害時等における事業継続計画の策定、避難訓練等の実施	B
	⑮災害等の非常時における避難者への対応	B
適切な評価基準の設置と事業評価の実施等	⑯自己評価の実施	A
	⑰県の事業評価結果の事業計画への反映	B

2 事業内容

【文化事業の実績】

事業名		開催日	入場者数	内容
(1) 創造拠点事業			17,398	
県立劇場自ら取り組む舞台制作や文化団体の活動を支援する事業	第 58 回熊本県芸術文化祭オープニングステージ			
	ヤマカズが贈る 新・合唱	H28/8/30(日)	1,783	芸術監督・指揮者に山田和樹を迎え、芸文祭合唱団・オーケストラと東京混声合唱団による「土の歌」ほか演奏。
	芸文祭合唱団練習(全 6 回)	H28/5/29(日) ～8/21(日)	760	芸文祭合唱団による「土の歌」の合唱練習。
	芸文祭少年少女合唱団練習(全 3 回)	H28/6/26(日) ～8/9(火)	494	合唱組曲「くまモン」の練習。
	芸文祭オーケストラ練習(全 2 回)	H28/8/7(日) ～8/14(日)	120	「土の歌」の練習。
	(関連企画) 東京混声合唱団 in 山鹿	H28/7/27(水)	384	東京混声合唱団と山田和樹氏によるワークショップを実施。
	(関連企画) 合唱公開レッスン	H28/8/26(金)	80	山田和樹氏による合唱指導の公開講座を実施。
	地域をむすぶアートプロジェクト	H28/5/24(火) ～H29/3/19(日)	1,152	平成 28 年熊本地震後、大学や益城町と連携し、介護現場や被災地でのワークショップ等を実施。
	児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験(芸術家派遣)	H28/11/15(火) ～H29/2/5(日)	503	文部科学省の受託事業として「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に関する芸術表現体験事業」を県内 4 小学校で実施。
	わかったさんのクッキー	H28/8/16(火) ～8/18(木)	474	熊本在住の劇作家岡田利規氏の作・演出による子ども向け演劇公演。
	三代目、りちゃあど			
	三代目、りちゃあど	H28/12/8(木)	473	作 野田秀樹、演出 オン・ケンセンによる演劇公演を、日本、シンガポール、インドネシアの共同制作により上演。
	(関連企画) 夏目漱石が読んだシェイクスピア	H28/9/17(土)	134	劇作家平田オリザと姜館長による対談を実施。
	(関連企画) ワヤン影絵芝居ワークショップ	H28/11/10(木)	34	インドネシアの伝統的な影絵芝居を体験するワークショップを実施。
KENGEKI@Live(ケンゲキ・アット・ライブ)	9 月～毎月 1 回	800	県内在住の音楽家等によるオープンミニコンサートを実施。	

	人材育成事業			
	第2回舞台技術の基礎講座 (全4回)	H29/1/7(土) ~2/12(日)	74	受講生を照明・音響の2コースに分け、演劇作品を通して講座を実施。
	〈県劇ゼミ〉 フロントスタッフのお仕事	H29/1/12(木)	19	チケットもぎりや客席案内など、フロントスタッフとしてのスキルを学んだ。
	文化活動支援事業	通年	2,632	6事業に会場費を助成。
	民間共催事業			
	第55回熊本県新人演奏会(主催:熊本県文化協会)	H28/11/15(土)	743	オーディションで選ばれた県出身または在住の演奏家10人が演奏。
	ベートーヴェン「第九」(主催:熊本県民第九の会)	H28/12/25(日)	1,397	指揮:金洪才
地域の公立ホールを支援する事業	ネットワーク事業	通年	4,238	「林家たい平」、「うないぐみ」、「クロコディオロス」、「熊本交響楽団」等県内外の芸術団体を8市町村に派遣し9公演実施。
	被災地支援交流事業	H29/3/4(土) ~3/5(日)	550	東松島市に落語家と演奏家を派遣。
	公立文化ホール支援事業	H28/9/1(木)	24	震災後の新たな事業についての事例発表等を行った。
伝統文化の継承と発展を支援する事業	邦楽ワークショップ	H28/8/12(金)	188	お囃子(笛、太鼓)などの邦楽器を体験できるワークショップを実施。
	漱石来熊120年記念能楽講座「漱石と能」	H28/12/24(土)	136	宝生流シテ方佐野登ほか能楽師を講師に、能楽講座を開催。
	ホワイエ薪能	H29/2/11 (土・祝)	206	熊本出身・在住の能楽師らによる演能を上演。
(2)普及拠点事業			25,017	
舞台芸術を鑑賞する機会を県民に提供する事業	アリス=紗羅・オット ピアノリサイタル	H28/9/27(火)	1,111	ドイツを拠点とするアリス=紗羅の熊本初ピアノリサイタルを実施。
	辻井伸行 加古隆 レ・フレール THE PIANIST!	H28/11/21(月)	1,740	ジャンルもスタイルも異なる3組4人のピアニストによる公演。
	ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団	H28/12/1(木)	1,438	指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ヴァイオリン:榎本大進
	佐々木典子&大澤一彰 デュオリサイタル	H29/1/25(日)	630	熊本県出身のソリスト二人による公演。
	花形狂言 2017	H29/2/19(日)	568	京都 大蔵流茂山千五郎家の若手狂言師による公演。

	民間共催事業			
	佐渡裕指揮シエナ・ウインド・オーケストラ(主催:熊本朝日放送)	H28/12/21(水)	1,644	指揮:佐渡裕 バリトン:キュウ・ウォン・ハン
	前進座子どものための創作歌舞伎「牛若丸」(主催:熊本県子ども劇場連絡会)	H29/2/17(金)	820	前進座による創作歌舞伎「牛若丸」を上演。
様々な場所で芸術文化に触れる機会を県民に提供する事業	演奏家派遣アウトリーチ事業	H28/10/13(木) ~H29/3/12(日)	1,726	あさぎり町、菊陽町、御船町、益城町の小学校でアウトリーチを、菊陽町、益城町でコンサートを実施。
	登録アーティスト育成事業	H28/9/7(水) ~H29/3/13(月)	126	平成 28・29 年度劇場登録アーティストを募集、2 名を選出した。
	芸術家派遣コーディネート事業	H28/10/19(水)	505	熊大附属中の芸術鑑賞会で、野村万禄の会による狂言を実施。
	ぴっころシート事業	通年	60	3 公演で 93 人の子ども等を招待したほか、菊水学園でアウトリーチ事業を実施。
	アートキャラバンくまもと			
	アートキャラバンくまもと	通年	12,743	熊本地震を受け始めた新事業。こころの復興を支援しようと、お出掛け公演やワークショップを実施。
	N響からのおくりもの	H29/2/9(月)	1,796	ヴァイオリン:篠崎史紀 室内楽:NHK交響楽団メンバー
震災報告会 熊本地震を振り返る	H29/3/2(木)	110	日本大学理工学部教授による基調講演と、公共ホール館長らによる意見交換を実施。	
計			42,415	

【運営方針に定めるミッションの達成度】

(1) 質の高い事業の実施

■評価項目①：質の高い実演芸術に触れる機会の提供

評価	理由
A	管弦楽、ピアノ、合唱、古典芸能など、様々な分野で一流のアーティスト等による自主事業を実施しており、幅広い層の県民に質の高い実演芸術に触れる機会を数多く提供している。 また、公演の企画・立案に当たっては、見識者等で構成する「文化事業委員会」に意見聴取を行うなど、広く県民ニーズを反映した内容となるよう努めている。

■評価項目②：特色ある自主企画事業の実施

評価	理由
A	H28年度の県芸術文化祭オープニングステージは、世界的指揮者・芸術監督である山田和樹氏を迎え、「合唱」をテーマに実施。少年少女合唱団、芸文祭合唱団、オーケストラによる東京混声合唱団による共演を行い、満席となった客席から大きな拍手が送られた。また、メインステージ公演のみにとどまらず、関連事業として、ワークショップ等を開催。関係者や子どもたちから高い評価を得ている。 熊本地震を受け、「こころの復興」に資するため、「アートキャラバン事業」として主に被災地の方々に、第一線で活躍するアーティストが文化芸術を届けるおでかけ公演、演劇的手法を用いた「寄り添い型」の子ども向けワークショップ等の取組みは高く評価できる。

(2) 普及啓発

■評価項目③：児童、生徒、学生等に対する質の高い実演芸術に触れる機会の提供

評価	理由
A	県立劇場主催の文化事業においては、ほとんどの公演で学生割引が設定されており、14公演で託児サービスが実施されている。 また、児童養護施設の子どもの招待、親子向けの鑑賞プログラムや、子ども向けのワークショップを複数実施するとともに、学校向けの広報にも積極的に取り組むなど、児童等が実演芸術に触れる機会の創出に努力している。

■評価項目④：実演芸術の理解を一層深めるための付随事業の実施

評価	理由
A	芸文祭オープニングステージ関連企画として、指揮者の山田和樹氏を講師に迎え、「合唱公開レッスン」を実施。学校現場や関係者のみならず、一般の方にも、合唱の魅力に触れ、理解を深める機会となった。 その他、付随事業の実施に当たっては、単なる座学だけでなく、参加型のワークショップや、人気劇作家と県劇館長によるトークイベント、公演を楽しむための「開演直前！ミニ講座」を開催するなど、幅広い層の興味を引く内容とし、鑑賞者の裾野の拡大、実演芸術の理解を深める取組みを行っている。

■評価項目⑤：アウトリーチ事業の実施

評価	理由
A	小中学校へのアウトリーチのほか、介護現場でのワークショップの開催、児童養護施設へのアーティスト派遣等、対象者が異なる複数のアウトリーチ事業を実施している。 なお、アウトリーチの実施に当たっては、受け入れ先及びアーティストと協働で年間のプログラムを企画・立案し、計画的かつ効果的な事業の実施に努めている。

■評価項目⑥：国内外で活躍する熊本県出身芸術家等との連携

評価	理由
A	<p>県立劇場主催、共催の文化事業で県出身の音楽家を起用したほか、被災地支援事業、アウトリーチ事業、ネットワーク事業等においても県内または県出身のアーティストと積極的に連携して取り組んでいる。</p> <p>新たな取組として、「登録アーティスト育成事業」を実施。県出身、県在住のアーティスト（計2名）を公募で選出し、アウトリーチ事業を通して育成を図っている。</p> <p>また、「熊本県新人演奏会」「熊本県民第九の会 ベートーヴェン第九」など、県出身芸術家に関わりが深い取組みを積極的に支援している。</p>

■評価項目⑦：日常的に人々が集い自由に文化芸術に触れることができるための工夫

評価	理由
A	<p>劇場内には、県内美術愛好家の要望により設置した「県劇ギャラリー」で絵画を展示したほか、生け花の展示や文化情報の掲示を行っている。</p> <p>来館者の利便性を高めるため、熊本都市バスとの連携による臨時バスの運行等にも努めている。</p> <p>劇場内のオープンスペースで気軽に発表できるミニライブ「KENGEKI@Live(ケンゲキアット ライブ)」を毎月1回実施（地震による休館中は休止）。学生吹奏学部や地元の音楽活動団体などが参加し、約800人が観覧。</p> <p>また、熊本地震後、劇場の再開を前に、地域住民と一体となって「県劇夏祭り」を開催するなど、より地域に開かれた、人々が集う劇場になるための工夫を行っている。</p> <p>なお、劇場から離れた場所にいる方々にもアートを届けるため、保健科学大学と連携した「地域を結ぶアートプロジェクト」の実施や、被災地へアートを届ける「アートキャラバンくまもと」などにも積極的に取り組んでいる。</p>

(3) 専門的人材の確保及び資質向上

■評価項目⑧：専門的能力を有するスタッフの確保

評価	理由
B	<p>長年実演芸術の公演の企画・制作に携わっている職員を有しており、職員の採用にあたっては実務経験者や文化芸術活動に携わっている者を積極的に採用し、専門能力を有するスタッフの確保に努めている。</p> <p>今後も、若手職員には積極的に実務の経験をさせ、定期的に研修を受講させるなど、長期的視点でスタッフの育成に取り組んでいただくことを期待する。</p>

■評価項目⑨：県立劇場スタッフの専門的能力向上のための研修等の機会の付与

評価	理由
B	<p>年間を通して外部の研修会に積極的に職員を派遣したり、支援制度を活用して経験豊富なコーディネーターをアドバイザーとして受け入れ、劇場スタッフが専門性の高い仕事に触れる機会を設けている。</p> <p>今後は、組織内での定期的な研修の実施や、自主企画による研修機会の付与など、更なる能力向上のための取組みを期待する。</p>

(4) 関係機関との連携強化

■評価項目⑩：県内文化ホール等（県外文化ホール、海外の文化ホール、実演芸術団体等を含む）との共同公演、巡回公演、情報交換等の実施

評価	理由
A	<p>ネットワーク事業、アウトリーチ事業、職員研修等において、県内文化ホール等と協働で事業を実施し、併せて情報やノウハウの提供を行っている。</p> <p>また、ホームページや館内でのポスター・チラシ等掲示により、県内文化ホールの公演情報の提供を行っている。</p>

■評価項目⑪：県内文化ホールへの派遣指導、受入研修、集合研修等の実施

評価	理由
B	<p>県立劇場からの派遣指導、県立劇場での受入研修を行っているほか、熊公文会長館として、集合研修の企画・運営にも取り組んでいる。</p> <p>舞台公演を支える技術者の減少が課題となるなか、将来の技術者養成につなげようと、昨年度に引き続き舞台技術者養成講座を実施。</p> <p>今後は、県内文化ホールへの支援を一層充実させるため、地震関連も含め、文化ホールのニーズを十分把握のうえ、計画的かつ長期的視点での取組みを期待する。</p>

3 経営の安定化

【施設の利用状況】

施設名		年度計	前年度計	前年度比
		開館日数	348	349
コンサートホール	利用可能日数	184	296	△112
	利用日数	139	217	△78
	利用率	75.5%	73.7%	2.2ポイント
	入場者数	134,817	218,389	△83,572
演劇ホール	利用可能日数	188	285	△97
	利用日数	163	225	△62
	利用率	86.7%	78.9%	7.8ポイント
	入場者数	122,333	144,600	△22,267
大会議室	利用可能日数	184	312	△128
	利用日数	128	226	△98
	利用率	69.6%	72.4%	△2.9ポイント
	入場者数	23,506	50,241	△26,685
和室	利用可能日数	210	334	△124
	利用日数	88	125	△37
	利用率	41.9%	37.4%	4.5ポイント
	入場者数	866	2,289	△1,423
音楽リハーサル室	利用可能日数	209	332	△123
	利用日数	147	242	△95
	利用率	70.3%	72.9%	△2.6ポイント
	入場者数	4,683	21,540	△16,847
演劇リハーサル室	利用可能日数	164	332	△168
	利用日数	98	184	△86
	利用率	59.8%	55.4%	4.3ポイント
	入場者数	3,686	11,776	△8,090
第1練習室	利用可能日数	212	336	△124
	利用日数	115	179	△64
	利用率	54.2%	53.3%	1.0ポイント
	入場者数	3,588	13,313	△9,785
第2練習室	利用可能日数	211	334	△123
	利用日数	128	245	△117
	利用率	60.7%	73.4%	△12.7ポイント
	入場者数	2,726	11,151	△8,425
第3練習室	利用可能日数	212	339	△127
	利用日数	168	283	△115
	利用率	79.2%	83.5%	△4.2ポイント
	入場者数	4,358	13,721	△9,183
その他の入場者数	入場者数	810	3,605	△2,795
入場者数合計		301,553	490,625	△189,072

【点検・調査結果及び評価】

・H28年度の入場者数が前年度と比較して全体的に減少しているのは、熊本地震による4ヵ月間の全面休館期間があったため、利用可能日数が減少していることが主な要因である。利用率については両ホールにおいて目標を達成したが、これは休館による利用可能日数の減及び熊本都市圏の劇場が被災し県立劇場の利用が増加したことによるものである。

・平成29年度は大規模工事を実施しながら開館し、年度末には休館も控えているため、安全対策、騒音等利用者や周辺住民に理解を得ながら、引き続き利用率アップや入場者数の増に向け取り組んでいく必要がある。

【利用者調査結果】

(主催者)

調査 実施内容	調査年月日	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	
	調査方法	施設利用者を対象にアンケート用紙への記入方式で実施	
	調査対象数	73 団体	
評価項目(4段階評価)		満足度(平均値)	
		28 年度	27 年度
1	利用料金について<4:安い 3:やや安い 2:やや高い 1:高い>	2.65	2.68
2	利用手続きについて<4:円滑 3:概ね円滑 2:やや煩雑 1:煩雑>	3.73	3.69
3	フロア職員の接客態度や対応について <4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない>	3.97	3.94
4	ステージ職員の接客態度や対応について <4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない>	3.94	3.90
5	舞台・音響・照明について <4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない>	3.84	3.83
6	また利用したいと思うか <4:是非利用したい 3:利用してもいい 2:あまり利用したくない 1:もう利用したくない>	3.96	3.91
平均		3.68	3.66
利用者からの意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・フロア職員にはいつも細やかな対応をしていただき感謝している。 ・丁寧に対応していただき公演を成功させていただいた。 ・学生団体の利用料金を安くしてほしい。 	
【調査結果及び評価】 例年同様の傾向であり、利用者の満足度は概ね高いと評価できる。			

(来館者)

調査 実施内容	調査年月日	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日									
	調査方法	来館者を対象にアンケート用紙への記入方式で実施									
	調査対象数	2,201 人(熊本県芸術文化祭オープニングステージ等 11 事業))									
調査結果	調査分野	回答内容									
		大変満足		満足		やや不満足		不満足		分からない	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	内容	1,678	76.25	492	22.34	21	0.97	7	0.30	3	0.15
	チケット料金	1,212	55.08	833	37.83	75	3.41	2	0.08	79	3.60
	開演、終演時間	991	45.03	1,043	47.41	139	6.33	21	0.95	6	0.29
	スタッフ対応	1,008	45.78	1,105	50.21	39	1.76	8	0.35	42	1.90
	公演情報の入手	727	33.04	1,072	48.70	267	12.13	33	1.52	102	4.61
	鑑賞マナー	815	37.03	1,116	50.68	218	9.91	27	1.24	25	1.13
計	6,432	48.70	5,660	42.86	760	5.75	98	0.74	257	1.95	
利用者からの意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・地震の後、久々のコンサートで爽やかな風を感じた。悲しいこともたくさんあったが、歌の力で元気をもらった。体が震えるくらい感動した。(芸文祭オープニングステージ) ・舞台と客席が近く良かった。能楽のことを勉強し、再度観劇したい。(ホワイエ新能) ・手ごろな価格で、クオリティの高い公演を観ることができ良かった。 ・スタッフが客の要望を的確に判断し即応してくれたことに感謝。手際よく案内誘導されている。感じがよい。 ・公演情報について、周知方法をもう少し工夫していただきたい。 ・演奏が始まってから着座する、咳払い、タブレットの光など来場者のマナーが気になっ 									

た。マナーについての呼びかけがほしい

【調査結果及び評価】

ほとんどの質問項目において9割の人が「大変満足」、「満足」と回答し高い評価を得ているが、昨年同様、「公演情報の入手」に関しては同割合が8割弱にとどまっており、より幅広い層に公演情報を伝えるための広報面の取組みが求められる。

【管理運営経費の収支状況】

① 収入		
項目	内 訳	金額(円)
指定管理委託料	管理業務受託収入、事業受託収入	435,042,579
特定資産運用収入	特別企画事業積立資産利息等	9,057
事業収入	創造拠点事業収入、普及拠点事業収入、財団自主文化事業収入	27,334,013
補助金等収入	団体助成金収入、市町村負担金収入	35,399,268
制作受託収入	制作受託収入	3,047,255
広告料収入及び事業協賛金収入	広告料収入及び事業協賛金収入	150,000
基本財産運用収入	基本財産利息収入	10,012
寄附金収入	寄附金収入	18,577,075
雑収入	受取利息収入、雑収入	5,089,817
特定資産取崩収入	退職給付引当資産取崩収入、特別企画事業積立資産取崩収入	46,924,479
前期繰越収支差額		27,054,284
合 計		598,637,839

② 支出		
項目	内 訳	金額(円)
事業費支出	創造拠点事業費支出、普及拠点事業費支出、普及・啓発広報事業費支出	105,757,694
管理費支出	人件費支出、物件費支出、リース債務返済支出	412,459,185
特定資産取得支出	退職手当引当資産取得支出、特別企画事業積立資産取得支出	35,886,132
財務活動支出	リース債務返済支出	4,678,176
次期繰越収支差額		39,856,652
合 計		598,637,839

【点検・調査結果及び評価】

- ・指定管理委託料以外の収入確保に努め、文化事業等に充当しているなど、適正な事業運営が行われている。
- ・次期繰越収支差額から前期繰越収支差額を差し引いた額は黒字であり、堅実な事業運営がなされている。黒字分については、平成29年度以降の文化事業等に充当する予定である。

【運営方針に定めるミッションの達成度】

■評価項目⑫：協賛企業の確保等、多様な財源の確保

評価	理由
B	文化庁や地域創造からの助成金の獲得に積極的に取り組んでおり、県民に対し、質の高い舞台芸術に触れる機会を数多く提供している。平成28年度は熊本地震を受け、寄附金制度を創設し文化事業に充てるなど新たな取組みについて評価できる。 一方で、寄附金は一過性のものであり、より安定的な財源を確保するためにも、助成金以外の多様な財源の獲得（会員制度の導入等）にも戦略的に取り組み、経営の安定化を一層図っていくことを期待する。

■評価項目⑬：公演実施者及び鑑賞者の拡大に向けた取組みの実施

評価	理由
A	チケット販売に係る戦略的な広報・営業活動の取組みや、コンシェルジュ制度の導入による利用者へのサービス向上、付帯事業の充実等により、鑑賞者を増やすための取組みが積極的に行われている。今後は、目標入場者数、利用率の達成に向けて、利用者や観客のニーズをより反映した事業の展開等を期待する。

4 安全管理

【運営方針に定めるミッションの達成度】

■評価項目⑭：災害時等における事業継続計画の策定、避難訓練等の実施

評価	理由
B	「熊本県立劇場 危機管理マニュアル」を平成28年8月に見直し、地震発生時には震度ごと（弱震・中震・強震）に分けた対応を策定するとともに、財団職員のみならず、催事には主催者とも協力体制がとれるよう事前に打ち合わせを行っている。年2回の消防訓練を職員全員で実施。また、平成28年度は救急救命訓練2回、地震訓練1回、消防訓練2回、レストラン従業員、業務委託先従業員と共に実施している。 今後は、更に訓練を重ね、災害時に冷静に対応できるような体制づくりを行っていただくことを期待する。

■評価項目⑮：災害等の非常時における避難者への対応

評価	理由
B	災害等の非常時において緊急的に県立劇場への避難が必要となった者がいる場合、避難場所として施設を提供する方針であり、職員にも周知されている。 今後は、避難場所として施設を提供する場合のマニュアルの整備にも取り組んでいただくことを期待する。

5 適正な事務執行等

【施設維持管理業務実績】

作業項目		実施頻度	備考	
業務名	業務内容			
清掃業務	日常清掃	事務室等 6 項目	使用のつど～1回/1～2日	仕様書に沿って適正に実施
	定期清掃	事務室等 4 項目	2回/月～4回/年	仕様書に沿って適正に実施
高所清掃業務	ガラス清掃	—	4回/年	仕様書に沿って適正に実施
水質管理	水質検査(市水)	残留塩素測定等 3 項目	1回/週～年	検査結果問題なし
	水質検査(井水)	定期検査	1回/年～3年	検査結果問題なし
	受水槽等清掃		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
環境測定	空気環境測定	—	6回/年	測定結果問題なし
衛生管理	特定建築物維持管理実績報告		1回/月	仕様書に沿って適正に実施
	害虫駆除		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
	汚水ピット清掃		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
	ソーラー蓄熱槽清掃		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
警備業務	常駐警備業務		全日	仕様書に沿って適正に実施
	駐車場整理用務		必要時	仕様書に沿って適正に実施
設備維持管理	総括管理、運転監視、日常巡視点検	設備 39 項目	1回/週～7回/年	点検結果問題なし
	高圧受電設備保安点検		1回/年	点検結果問題なし
	非常用発電機	法定点検等 2 項目	1～2回/年	点検結果問題なし
	電気設備点検	法定点検等 4 項目	1～2回/年	点検結果問題なし
	空調設備保守点検	ヒートポンプチラー等 15項目	1回/月～4回/年	点検結果問題なし
	中央監視装置・自動制御機器保守点検		中央監視装置総合1回/年 空調機器 1回/年 他	点検結果問題なし
	昇降設備保守	エレベーター 2 項目	1回/月	点検結果問題なし
	消防用設備保守点検		総合点検 1回/年 外観点検 2回/年 他	防煙垂れ壁修繕済
	特定防火対象物報告		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
	自動ドア保守点検		3回/年	点検結果問題なし
	煤煙測定業務		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
	給湯ボイラー保守点検		1回/年	点検結果問題なし
	緊急ガス遮断装置保守点検		2～3回/年	点検結果問題なし
	その他の設備維持管理	有料駐車機保守点検		4回/年
施設予約管理システムソフト保守			問題発生時	仕様書に沿って適正に実施
舞台吊物保守点検			3回/年	経年劣化のため要更新
舞台迫り保守点検			3回/年	大部分の部品交換要検討
舞台照明システム保守点検			2回/年+問題発生時	点検結果問題なし
舞台音響システム保守点検			2回/年+問題発生時	点検結果問題なし
楽器類保守点検	ピアノ等 4 項目		1回/年+(調律 3回/年)	大会議室ピアノ弦全張替
	チェンバロ		1回/年	点検結果問題なし
一般廃棄物	廃棄物処理業務		日曜、祝祭日を除く毎日	仕様書に沿って適正に実施
植栽等管理	樹木管理業務	駐在作業等 9 項目	随時、20日/月～3回/年	仕様書に沿って適正に実施
その他	トイレ洗浄機、消臭器		1回/2ヶ月	仕様書に沿って適正に実施
	玄関マット等		1回/2週	仕様書に沿って適正に実施
	貸植木		1回/月	仕様書に沿って適正に実施

【点検・調査結果及び評価】

- ・維持管理業務は適正に実施されており、安全・清潔・快適な劇場の施設・設備の提供が行われた。
- ・熊本地震による被害調査・復旧工事についても迅速・的確に対応し、館内の安全確保・早期開館を実現している。

【使用料の収納実績】

月	要収入額	収入済額	収入未済額	摘要
(H28) 4	10,457,800	7,678,870	2,778,930	
5	2,540,820	5,319,750	0	
6	2,686,560	2,686,560	0	
7	8,305,650	7,059,560	1,246,090	うち、使用者に還付 1 件 56,580 円
8	8,524,420	9,206,130	564,380	うち、使用者に還付 7 件 657,800 円
9	19,104,080	19,296,440	372,020	うち、使用者に還付 13 件 964,120 円
10	21,413,440	21,451,160	334,300	うち、使用者に還付 8 件 146,020 円
11	16,882,720	13,661,590	3,555,430	うち、使用者に還付 5 件 176,660 円
12	18,088,440	21,513,980	129,890	うち、使用者に還付 2 件 27,650 円
(H29) 1	16,163,540	15,833,260	460,170	うち、使用者に還付 4 件 21,810 円
2	13,865,270	13,772,230	553,210	うち、使用者に還付 3 件 42,125 円
3	22,540,590	21,085,130	2,008,670	うち、使用者に還付 2 件 131,220 円
(4)	0	1,878,700	0	
(5)	0	80,000	49,970	
年度計	160,573,330	160,523,360	49,970	うち、使用者に還付 45 件 2,223,985 円

【点検・調査結果及び評価】
年間を通して、使用許可及び収納事務は概ね適正に行われた。

【意見・苦情等の対応】

利用者からの意見・苦情等	改善状況
職員等の接遇に関すること（電話対応等）	例会等の折に触れ、繰り返し注意喚起を実施している。
駐車場に関すること（満車表示のタイムラグ、終演後の出庫が大渋滞する、等）	満車が予想される日をあらかじめホームページ等で周知するとともに、駐車場の空き状況をホームページでリアルタイムに確認できるようにしている。 また、終演後の渋滞解消のため、職員や警備員を配置した誘導整理を行い、出庫時間短縮に努めた。

【調査結果及び評価】
利用者からの苦情に対して、すぐに再発防止等に向けた取組みが検討されるなど適正な対応が取られている。

6 適切な事業評価の実施と翌年度計画への確実な反映

【昨年度の評価で改善を指摘された事項に対する対応】

指摘事項	改善内容・結果
会員制度の構築等、財源確保及び入場者の維持・拡大に関する取組みが進んでいない	情報収集等を行っているものの、具体的検討には至っていない。
幅広い層に公演情報を伝えるための広報面の取組みが必要	ホームページをリニューアルするとともに、フェイスブックを本稼働させ、即時性のある情報提供を行った。

【運営方針に定めるミッションの達成度】

■評価項目⑯：自己評価の実施

評価	理由
A	文化事業実施については、鑑賞者アンケートにより満足度や、感想・意見を客観的に評価するとともに、自ら定量・定性評価を行い、今後の事業の企画・運営に反映させている。 また、県内の芸術文化関係者の参画による文化事業委員会を設置し、文化事業の内容について意見聴取している。

■評価項目⑰：県の事業評価結果の事業計画への反映

評価	理由
B	「会員制度の構築等、財源確保及び入場者の維持・拡大に関する取組み」については具体的検討には至っていない。 「幅広い層に公演情報を伝えるための広報面の取組み」については、フェイスブックを本格稼働させるなどの対応を取っているが、幅広い層、特に IT 弱者に公演情報を伝えるための広報面の取組みについては引き続き検討が必要である。